

スポーツクリ

TOTO

BIG

2022

No. 102

Winter

Dance ダンス Dance ダンス Dance ダンス

世界ダンススポーツ連盟会長 ニューイヤーメッセージ

第41回三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権

WDSF世界ブレイキン選手権2021 フランス/パリ大会
日本代表女子が金メダル、銀メダル!



公益社団法人
日本ダンススポーツ連盟
Japan DanceSport Federation

来たとき よりも キレイに!

世界に示す、クリーンジャパン



KEEP EVERYTHING
MORE BEAUTIFUL
THAN IT WAS.

Show the world, CLEAN JAPAN!



JAPANESE OLYMPIC COMMITTEE
公益財団法人 日本オリンピック委員会





New Year's message

Dear Officials and members of JDSF,

As President of the World DanceSport Federation, I extend my best wishes to you as we start to reinstate our competitions in careful stages.

Several very important championships have taken place this year which include the World Championships Standard, World Championships Latin and World Breaking Championships. Most of them were hugely successful. I would like to Congratulate the 2 Bgirls from Japan, Ayumi and Ami for their very impressive performances and winning the first 2 places at the 2021 WDSF World Breaking Championships held in Paris on 4 Dec 2021.

Moving forward we can expect more events to take place which include the World Games 2022, Asian Games 2022, Asian Youth Games 2022 and Asian Indoor and Martial Arts Games 2023.

The route to the Olympic Games will also start in 2022. The 2024 Olympic Games qualifying competitions will take place from June 2022 all the way to the Olympic Games. The details will be announced in Feb 2022, and I am confident that it will be a most exciting experience for our Breaking athletes.

This year, many member countries in Asia such as Japan have managed to start competitions at the National level. With the rapid improvement of vaccination status among all our Asian Member bodies, our athletes in Asia can look forward to more international competitions among the Asian countries in the coming years.

With the success of our Breaking competitions and the inclusion of Breaking into the Paris Olympic Games 2024, I am confident that WDSF and DanceSport will continue to significantly grow in the years to come.

Please accept my sincere and warm wishes to all JDSF officials and members for a Happy & Prosperous New Year.

Shawn Tay
WDSF President

JDSFの役員と会員の皆様

世界ダンススポーツ連盟の会長として、慎重な段階を経て競技会を再開するにあたり、皆様にご挨拶申し上げます。

今年は、世界選手権スタンダード、世界選手権ラテン、世界選手権ブレイキンなど、非常に重要な大会が開催されました。ほとんどの大会が大成功を収めました。

2021年12月4日にパリで開催された2021WDSF世界ブレイキン選手権の1位と2位を獲得した、日本の2人のB-Girls、Ayumi (福島あゆみ) と Ami (湯浅亜実) にお祝いを申し上げます。

今後は、2022年のワールドゲームズ(米国/バーミングハム)、2022年のアジア競技大会(中国/杭州)、2022年のアジアユース競技大会(中国/汕頭)、2023年のアジアインドア&マーシャルアーツゲームズ(タイ/バンコク&チョンブリ)など、さらに多くのイベントが開催される予定です。

オリンピックへのルートも2022年に開始されます。2024年開催のオリンピックの予選会は、2022年6月からオリンピック開催までの期間に行われます。詳細は、2022年2月に発表されますが、ブレイキンの選手にとって最もエキサイティングな経験となることを確信しています。

今年は、日本をはじめとするアジアの多くの加盟国で、ナショナルレベルの大会がスタートしました。

アジアのすべての加盟国で、ワクチン接種状況が急速に改善されたことから、アジアの選手たちは、今後数年のうちにアジア諸国間でより多くの国際大会が開催されることを楽しみにしています。

私たちが開催したブレイキン競技の成功と、2024年のパリオリンピックにブレイキンが採用されたことで、WDSFとダンススポーツが今後も大きく成長していくことを確信しています。

JDSFの役員と会員の皆様の新年のご多幸を心よりお祈り申し上げます。

ショーン・テイ
WDSF会長

訳文(一部追記) 鶴崎清貴 JDSF国際本部長

第41回 三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権

2021年11月6日(土)、7日(日) / 駒沢オリンピック公園総合運動場体育館

第41回三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権大会と各併設競技会が、11月6日(土)と7日(日)の両日に駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で開催されました。1981年の第1回大会に、故三笠宮崇仁親王殿下・百合子妃殿下ご臨席を賜って以来、御下賜の「三笠宮杯」は国内最高峰の全日本選手権の象徴となり、多くのダンススポーツ選手の目標として輝き続けています。

日本のみならず世界を巻き込む新型コロナウイルス感染症の影響が今年度も継続するなか、万全な感染防止対策のもとに準備された大会は、昨年の無観客大会から変更され観客数を限定した公開競技会でした。大会関係者と観客の導線を完全に分離、出場予定選手全員にはPCR検査による陰性確認を行ったうえでフロア上でのノーマスクを認め、役員・大会関係者などに関してはすべて2回のワクチン接種証明を条件とするなどの事前準備の上で開催された大会は、1日目に三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権スタンダード、三笠宮杯全日本PD

ダンススポーツ選手権ラテン、U-23オールジャパン・ダンススポーツカップスタンダードの3競技、2日目には三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権ラテン、三笠宮杯全日本PDダンススポーツ選手権スタンダード、U-23オールジャパン・ダンススポーツカップラテン、JOCジュニアオリンピックカップ全日本選手権ジュニアスタンダード・ラテン、毎日新聞社杯全日本選手権ジュブナイルのスタンダード・ラテンの7競技でした。2年ぶりに直接競技を目にする会場の観客に加え、昨年続くYoutubeでのライブ中継も行なわれ、その後の放映を通じてのべ14万回に近い視聴数を現在も重ねつつあります。

初日の三笠宮杯スタンダードでは熱戦を制した大西組が初優勝をかざり、ラテンでは藤井・中村組が制しました。PD選手権スタンダードは全種目を制覇したオレクシー・太田組が6連覇を遂げ、ラテンでは2年ぶりに同競技に復帰した山本・木嶋組がチャンピオンとなりました。(佐藤肇之JDSF広報部長)



篠田龍佑実行委員長による開会宣言



優勝杯返還 上 (GD) 下 (PD)



謝辞を述べる市原則之 JDSF副会長



グランドセレモニー



2年ぶりの有観客席



ご来賓の皆様

市原JDSF副会長と岡崎朋美JDSF理事

毎日新聞社杯全日本ダンススポーツ選手権ジュブナイル スタンダード



- 第4位 見山遥都・佐藤緒心組(栃木県)
- 第5位 足立博海・吉村城音組(千葉県)
- 第6位 小林泰勲・寺本彩央組(神奈川県)



第3位

渡邊桐菜・高瀬 遥組 (山梨県)



準優勝

齊藤有音・加藤向葵組 (千葉県)

カップルを組んでまだ1年足らずです。今日は優勝する気満々でしたがホッとした気持ちも大きいですが、特に肩を落とすことやネックの位置に気を付けながら踊りました。ジュブナイル最後なのでこれからはジュニアで頑張っていきたいです。(矢野) まだジュブナイルで力をつけて次はジュニアで頑張っていきたいです。(柴田)

矢野響大・柴田莉奈組 (千葉県)



優勝

三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権 スタンダード

大西大品・大西咲菜組(富山県)

優勝

準決勝まで踊ってかなり接戦だったこともあり2人で励まし合いながらの決勝でした。最後まで楽しく踊れたことが良かったです。決勝でも1種目1種目を大事に踊ってきましたが、僅差で迎えた最後のクイックステップは特に気合を入れました。世界選手権で感じた手ごたえを今日も同じように実感でき、結果が優勝となつてとても嬉しいです。静岡グランプリで優勝できていたので、意識して少しだけプレッシャーを感じましたが、それをバネにできたかなと思います。今日は観客も入っていてスポットライトもあり、ソロダンスでは私たちだけの舞台のように感じられ楽しく踊ることができました。今後は世界で活躍できる選手を目指します。



準優勝

小嶋みなと・盛田めぐみ組(神奈川県)



第3位

五月女光政・五月女淑佳組(栃木県)



第4位

石垣和宏・三喜穂菜美組(千葉県)



第5位

藤森春樹・金山咲月組(東京都)



第6位

山田恭平・秋山彩織組(東京都)



優勝

藤井創太・中村安里組(千葉県)

三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権 ラテン

優勝できて嬉しいですが、今日はプレッシャーが大きかったのでホツとしていたところもあります。前回の三笠宮杯からいろんな感情の変化があったのですが、良いライバルがいてくれることに感謝しています。来年はすべての競技会を制覇して真の日本チャンピオンになってそれをバネに海外に挑戦していきたいと思っています。目指すは世界チャンピオンという目標は変わりません。(藤井)
私の最後の三笠宮杯がジュニアだったので3~4年ぶりになりますが、素敵なリーダーとこの場に帰ってこれたことにとても感謝しています。(中村)

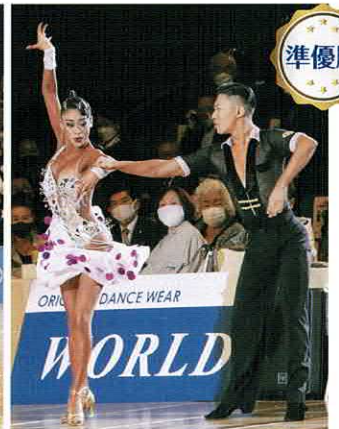
第4位

海老原拳人・タカギルナ組(東京都)



第3位

五月女光政・五月女淑佳組(栃木県)



準優勝

大西大品・大西咲菜組(富山県)



第6位

石垣和宏・三喜穂菜美組(千葉県)



第5位

TudorAndrei・吉川あみ組(東京都)



優勝

矢野響大・柴田莉奈組(千葉県)



第4位 斉藤有音・加藤向葵組(千葉県)
第5位 小林泰勲・寺本彩央組(神奈川県)
第6位 齊藤 功・土屋海音組(東京都)



準優勝

児山遥都・佐藤緒心組(栃木県)



第3位

渡邊桐葉・高瀬 遥組(山梨県)

全日本PDダンススポーツ選手権 スタンダード (毎日新聞社杯併杯)

優勝

アレクシー グザー・太田史圭子組 (リズメディア)

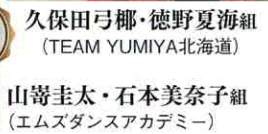
1年間PDグランプリが開催できなかったこともあって、前回の三笠以来の大会で自分たち自身へのプレッシャー、また昨年の無観客試合と変わった観客の皆さんの前で踊るプレッシャーを感じての踊りでした。でも、今日の競技を通じて新型コロナのなかでも決して負けない日本、そしてダンスの力を実感できました。来場いただいた皆さん、大会を実施していただいた皆さん、本当にありがとうございました。このフロアで踊れたことが自分たちにとってとても光栄だと感じ、一日一日を大事にしてダンスを、そして日本を盛り上げていきたいと願っています。



第4位



第5位

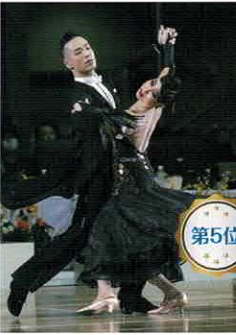
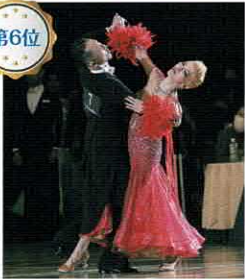


第3位



準優勝

第6位



秋谷孝宏・田原美穂組
(エムズダンスアカデミー)

久保田弓椰・徳野夏海組
(TEAM YUMIYA北海道)
山崎圭太・石本美奈子組
(エムズダンスアカデミー)

石原正幸・石原蘭羅組
(カルチャースタジオ三共)

山本武志・木嶋友美組
(LIBERA DANCE)

全日本PDダンススポーツ選手権 ラテン (毎日新聞社杯併杯)

山本武志・木嶋友美組 (LIBERA DANCE)

昨年はラテン部門に出場しなかったこともあって、新たにチャレンジャーとして2年ぶりの良い踊りをしたいという気持ちでここまで頑張ってきました。そしてしっかりした結果が出せてとても嬉しく思います。今年からスタジオを開いたことで、改めて良い仲間が大勢いることに気づかされました。たくさんの仲間や応援してくれる皆さんに感謝しています。

優勝



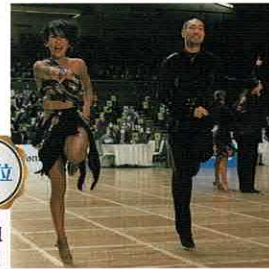
準優勝



第3位

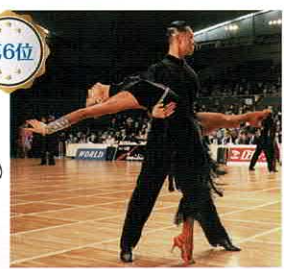


第4位



第5位

第6位



新屋秀和・滝川絵理組
(シンヤダンススタジオ)

久保田弓椰・徳野夏海組
(TEAM YUMIYA北海道)

西村康宏・鳥尾綾香組
(航空公園舞ダンススクール)

Kevin・河岡宏美組
(T Dance Production)

西 恭平・西川真由組
(LIBERA DANCE)



優勝

ホワイトン 謙心・ホワイトン 夏奈実組
(ブルボンDST)



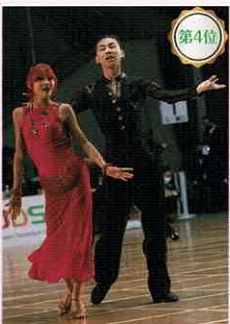
準優勝

津田琥汰朗・津田マリア組
(大阪府)



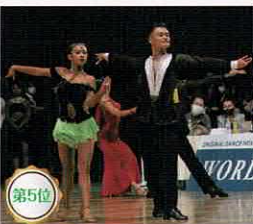
第3位

今西竜矢・中井結愛組
(東京都)



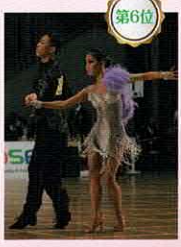
第4位

高階 凌・榮岩由莉那組
(北海道)



第5位

原口佑弥・大西陽来里組
(富山県)



第6位

岡内唯一・岡内暖羽組
(大阪府)

JOCジュニアオリンピックカップ 全日本ダンススポーツ選手権ジュニア ラテン

U-23 オールジャパン・ダンススポーツカップ スタンダード

優勝

木下将希・小西乙愛組 (ブルボンDST)

三笠宮杯にもエントリーしていたので疲れましたが、この優勝は大変嬉しいです。組んで約2年半になりますが最近になって踊りも変わってきてようやく合うようになってきました。今日うまく踊れなかったところを反省してさらに上達し、次の課題に取り組んでいきたいです。



準優勝

太田歩生・松本京佳組
(北海道)



第3位

滝川貴之・滝川綾乃組
(愛知県)



第4位

川本 竜・川本弥由組
(奈良県)



第5位

山本壮真・三喜真梨菜組
(ブルボンDST)



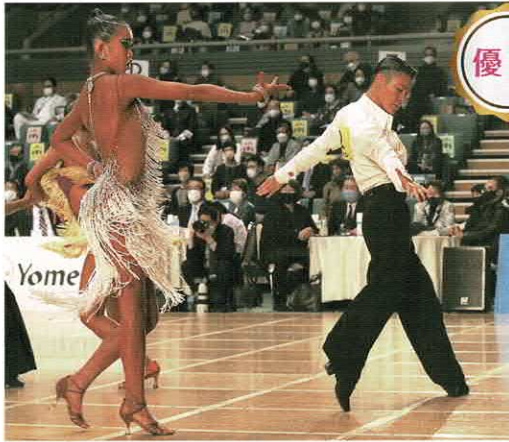
第6位

井川 毅・寺岡夏美組
(慶應義塾大学)

優勝

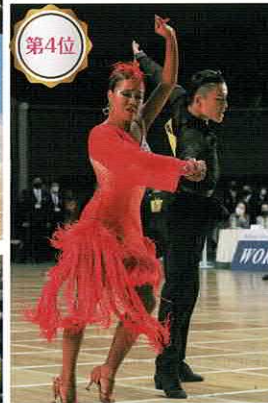
U-23 オールジャパン・ダンススポーツカップ ラテン

高橋 海・鈴木柚葉組 (千葉県)



優勝

準優勝



第4位

太田佳輝・岡田愛彩組
(長野県)



第3位

松浦龍騎・松浦優莉華組
(宮城県)



小島獅桐・牧野果礼組 (群馬県)



第6位

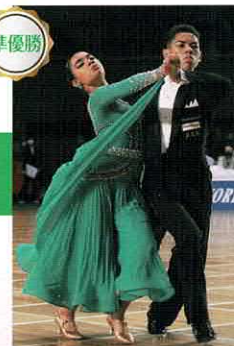
滝川貴之・滝川綾乃組
(愛知県)



第5位

今西竜矢・今西心菜組
(東京都)

準優勝



ホワイトン 謙心・
ホワイトン 夏奈実組
(ブルボンDST)



優勝

津田琥汰朗・津田マリア組
(大阪府)

JOCジュニアオリンピックカップ 全日本ダンススポーツ選手権ジュニア スタンダード

第6位

吉岡栄太・
打越聖愛組
(千葉県)

第4位

原口佑弥・大西陽来里組
(富山県)

第5位

外村温仁・
石井アンジェリーナ組
(神奈川県)



第7位

小林才時・前田佳音組 (長野県)

第3位

高階 凌・榮岩由莉那組
(北海道)

ラテンが準優勝で悔しい思いをしたこともあって、スタンダードでの優勝がとても嬉しいです。スタンダードが好きなのでこの結果の喜びをすごく大きく感じました。

イタリアから三笠宮杯を祝福、 そして、現在の心境などを語る

菅原一樹 (23歳) ・ ラウラ コラヴィッツァ (22歳) 組



菅原選手は1998年7月生まれ、群馬県高崎市出身、4歳でダンスを始め11歳の時から2年間、北海道小樽市の小学校に転校し、子どもダンスうんどうでお馴染みの小林英夫先生に師事。早くも内外の競技会で活躍。2011年群馬県選手権ラテン優勝を果たし、全日本ジュニア10ダンス優勝、2012年三笠宮杯JOCジュニアオリンピックカップラテン2年連続優勝、その後も数々の競技会で活躍。2016年イタリアに拠点を置き、イタリア人のラウラ コラヴィッツァさんとカップルを組み、内外のコンペで活躍。2018年の全日本10ダンスでも優勝を飾る。世界のトップを目指す菅原・ラウラ組は、ヨーロッパのコンペ等で実績をあげ、今後さらなる活躍が期待されます。

2021年の三笠宮杯も出場を目指しましたが、入国ビザが整わず出場を断念されました。そこで、二人の熱い思いをお届けします。
(神宮周二 JDSF広報部相談役)

Q：藤井創太選手は、昨年は欠場され今回の三笠宮杯は新しいパートナー中村安里さんと出場し、涙の初優勝、スタンダードは大西大晶・大西咲菜組が悲願の初優勝を果たしました。

A：優勝おめでとうございます！ 私たちも心からお祝い申し上げます。それぞれ、ジュニア時代から切磋琢磨してきた良きライバルであり、是非、また同じフロアで戦えるのを楽しみにしています！

Q：2年連続で三笠宮杯に出場できませんでしたが…。

A：コロナ禍でこれだけ長い間、日本で開催される大会に出場出来ないことはなかったのですが、日本の皆さんへ自分の成長を直接お見せ出来ないこと、日本のライバルたちと共に戦えないのは非常に寂しく感じます。特に三笠宮杯は、小さい頃からの夢の舞台で自分の中で一番思い入れのある大会なので、踊れないことはまことに残念で悔しい気持ちで一杯です。

しかしJDSFの方々やコーチと相談して決めたことですし、何よりイタリアにいて自分たちの踊りをより成長させることが出来ています。海外の試合でも成績が上がってきているので、「世界で勝つ」という目標には着々と近づけています。この期間に自分たちの踊りをさらに良いものにしていく機会とポジティブに捉え、頑張っていきたいと思います。そして1日も早く日本で踊れる日が来て、その時には最高の踊りが出来るよう準備していきます。

Q：三笠宮杯の一番の思い出は？ 三笠宮杯に対する思い入れを聞かせてください。

A：小さい頃から出場し、観戦もしているので沢山の思い出があります。一番の思い出は三橋櫻選手と組んでいたジュニア時代に、三笠宮杯全日本ジュニアオリンピックカップラテンで優勝「JOC杯」を戴いたことです。小さいながらあの時の優勝で日本代表選手として世界選手権に派遣していただき、日本オリンピック委員会（JOC）が認定した「オリンピック有望選手およびその指導者」を対象としたセミナー合宿にも参加でき、日本を代表するアスリートとしての自覚、責任感を感じるようになりました。そして“日本の強さ凄さを世界に見せつけていきたい”と思うようになりました。

パートナーのラウラさんも、三笠宮杯の空気感や会場の雰囲気が好きで、毎年楽しみにしています。照明や音楽、ハイレベルなライバルたち、沢山の応援をしてくれる観客の皆様のおかげで、毎回最高の気持ちで踊ることが出来ています。

Q：現在の生活環境について教えてください。

A：イタリアの「チームディアプロ」を拠点に生活しています。毎日の自主練の他に、コーチたちとの個人レッスン、ジムでのフィジカルトレーニング、アカデミーでの座学などに励んでいます。

日本には2021年1月に一時帰国し、母親（菅原久美子さん）に会って以来、帰ることができていないので、1年ほどずっとイタリアにいます。何度か日本で行なわれる大会のために帰ろうと試みたのですが、やはりコロナの影響で入国時の隔離があり、コーチとも相談した結果、イタリアでのイベントや試合を優先する生活を送っています。

Q：最近の主な成績は？

A：2021年6月イタリアのヴェローナにて WDSF Open スタンダード第4位、同ラテン第8位、10月スロベニアの International Championship Open スタンダード第5位、同ラテン第11位などです。

Q：ジュニア時代からライバルの八谷和樹・皆川円組は2021年ターンプロし、早くもJBDFプロスタンダード・ラテン共にA級選手としてプロ10ダンスチャンピオンになり活躍しています。ターンプロについてどのようなスタンスをお持ちですか？

A：八谷・皆川組とはジュニアの頃から一緒に戦ってきたライバルでもあり、友達としても仲良くさせていただいています。自分はまずはWDSFのアマチュアで世界一になることを目標に日々努力しているので、今はプロになることは考えていません。将来的にターンプロする可能性はあるとは思いますが、キャリアについてはコーチと相談して決めていきます。

Q：日本のファンの皆さんに他に一言お願いします！

A：コロナで世界中が大変な中、日本で試合を開催して下さるJDSF、そしてそれに携わる全ての方々に感謝したいです。ありがとうございます。しばらく日本の試合に出場出来ていませんが、早くこのコロナが収まり、日本で自分たちの成長した姿をお見せできたらと思います。

最後に、自分たちの近況を報告する機会を与えていただき、心より感謝しています。これからも応援、よろしくお願いします。



ヨーロッパ各地で活躍の菅原一樹・ラウラ コラヴィッツァ組

秋の叙勲 旭日双光章受章に輝く!! 永井彰茨城県ダンススポーツ連盟会長

2021年(令和3年)11月3日の秋の叙勲において、茨城県ダンススポーツ連盟会長永井彰氏の旭日双光章受章が発表されました。皇居での受章式はコロナのため中止となり、12月1日茨城県庁において教育庁関係の受賞者14名が授与式に参列し、小泉元伸茨城県教育長から勲章が授与されました。

40年間、県連盟の役員としてダンススポーツの発展と普及に尽力してきた功績が認められ授与されました。



受章者一同の記念写真



小泉元伸茨城県教育長と永井彰氏



賞状と勲章

祝賀会

2021年12月11日、水戸市の料亭「山口楼本店」において、盛大に開催されました。



感謝の辞を述べる
永井彰氏

謝辞

「ドレスアップして、礼儀正しく、マナーを重んじる、ダンススポーツはこうあるべき」と、がむしゃらにやってきた。これまでやってきたことに間違いは無い。今後も自信を持って推進したい。ダンススポーツがスポーツとして広く認められ、ダンス界で初めて受章することができました。1人でも多くの人に始めてもらいたい。長年にわたり私を支えてくれた妻や家族、多くの仲間へ感謝します。



中央永井彰・八重子ご夫妻と、その右隣田中秀朗茨城県DS連盟名誉会長と参加者一同

【主な経歴】

茨城県ダンススポーツ連盟

・2013年(平成25年) 会長(～現在)

公益社団法人日本ダンススポーツ連盟

・2005年(平成17年) 理事/事業本部長、財務委員長等歴任
・2021年(令和3年) 特任顧問/国体担当(～現在)

公益財団法人茨城県スポーツ協会

・2013年(平成25年)～2021年(令和3年) 理事

主な受賞歴

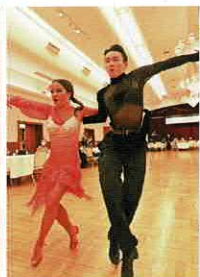
・2011年(平成23年) 財団法人茨城県体育協会 体育功労者表彰
・2011年(平成23年) 公益財団法人日本体育協会・日本オリンピック委員会創立100周年 功労者表彰
・2018年(平成30年) 文部科学大臣 生涯スポーツ功労者表彰

2021ダンススポーツフェスティバル in 富山

11月28日、特定非営利活動法人(認定NPO法人)富山県ダンススポーツ連盟は富山電気ビルディング大ホールにおいて、ダンススポーツフェスティバルを開催。JDSF-PD本部会員との共同での組織運営を図り、今後アーバングラスとしてHIPHOPを中心に、県内の小中高等学校と連動して10ダンスに興味を持ってくれるメンバーが出てくれることに期待し、アーバングラスディビジョンを正式に発表することになりました。オープニングセレモニーに続き、ジュニアや競技選手の演技発表、愛好者のトライアル等盛大に開催、最後にJDSF-PDチャンピオン山本武志・木嶋友美組による特別デモが披露され、盛会裏に終えることが出来ました。



原口侑弥・大西陽来里組
(ハッピー Happyクローバー)



太田佳輝・岡田愛彩組
(長野県/富山県)



ジュニアの演技発表

左から榎谷真一副理事長(JDSF-PD)、黒田成則副会長、笹山治一理事長、荒井市郎副会長



高田順一会長(阪神ホールディングス(株)代表取締役会長)



特別デモンストレーター
山本武志・木嶋友美組



オープニングでは、HIPHOP「NUKKI」のショーが披露



記念撮影

2021年度ランキング競技結果・ 2022年度JDSF競技会について



競技本部長 山口 剛

例年のように、2021年度のJDSFランキング競技会の結果、2022年度JDSF競技会予定及び2022年版競技関連規程集の主な改訂点についてご報告いたします。

- 1) 2021年度JDSFランキング競技の結果(別表)
- 2) 2022年度JDSFメイン競技会及びJDSF主催競技会予定。

JDSFメイン競技会 La:ラテンのみ St:スタンダードのみ

4/10	ダンススポーツグランプリin熊本 [大津総合体育館]	St
4/17	ダンススポーツグランプリin京都 [西宇治体育館]	La (PDグランプリSt 併催)
7/17	ダンススポーツグランプリin富山 [富山市総合体育館]	La (参議院選挙のため7/10→7/17に延期)
7/24	ダンススポーツグランプリin静岡 [浜松アリーナ]	St
9/11	ダンススポーツグランプリin仙台 [青葉体育館]	St (PDグランプリLa併催)
10/2	ダンススポーツグランプリin北海道 [北海きたえーる]	La (PDグランプリSt 併催)
11/19,20	三笠宮杯全日本ダンススポーツ選手権大会 [とどろきアリーナ]	
6/19	JDSF PD Japan Dance Trophy [福岡:宗像ユリックス]	

その他JDSF主催競技会等

1/9	全日本シニア10ダンス選手権 [京都:伏見港公園体育館]
3/20	全日本PD10ダンス選手権 [福岡:宗像ユリックス]
3/27	世界ユース選手権(スタンダード・ラテン)の派遣選考会 [京都:伏見港公園体育館]
6/5	全日本10ダンス選手権 [名古屋 稲永スポーツセンター]
7/30,31	第17回オールジャパン・ジュニアダンススポーツカップ [BumB東京スポーツ文化館] (予定)
8/28	日本スポーツマスターズ2022岩手大会記念事業DS競技大会 [花巻市総合体育館]
11/13	ねりんピックかながわ2022 [神奈川:カルッツ川崎]

その他を含め、右記を参照ください。⇒ <https://www.jdsf.or.jp/competition/tendance-maingames/>

※2022年国際派遣選考競技会

2022年度国際派遣選考競技会は部門別に下記の一覧表となりました。

代表派遣を目指す選手の皆様は良くご覧になり、予定を立て奮ってご参加ください。

なお、2012年からジュニアSt、Laの選考は、グランプリin大阪のジュニア区分、オールジャパンジュニアダンススポーツカップ、三笠宮杯全日本選手権ジュニア区分の3大会のポイントにより選抜されることとなっています。

また、2015年よりユースSt、La代表選考は、グランプリin静岡の全日本選手権ユース、オールジャパンジュニアダンススポーツカップ、グランプリin仙台のユース区分の3大会のポイントにより選考とすることになりました。

以上のことをしっかりとご確認の上で、JDSF競技会にふるって参加して頂き、JDSF競技会がなお一層活性化されますことを願っております。

2022年	熊本 (大津総合体育館) 4月10日	京都 (西宇治体育館) 4月17日	富山 (富山市総合体育館) 7月17日	静岡 (浜松アリーナ) 7月24日	オールジャパンジュニア (BumB 東京 スポーツ文化館) 7月30-31日	仙台 (青葉体育館) 9月11日	北海道 (北海きたえーる) 10月2日	三笠宮杯 (とどろきアリーナ) 11月19-20日
グランプリスタンダード	○			○		○		○
グランプリラテン		○	○				○	○
シニアIスタンダード		○					○	
シニアIラテン	○					○		
ユーススタンダード				○	○	○		
ユースラテン				○	○	○		
ジュニアIIスタンダード		○			○			○
ジュニアIIラテン		○			○			○

注. 世界ユース選手権/ジュニア選手権(スタンダード・ラテン)への派遣選考は、代表派遣をする世界選手権開催日3か月前を起点とした3大会のポイント結果により選考。

世界ユース選手権(スタンダード・ラテン)の派遣選考会(前年仙台の代替競技会)を、3月27日京都(伏見港公園体育館)で開催。

2022年度世界10ダンス選手権の派遣選考会は、2022年6月5日名古屋(稲永スポーツセンター)で開催。

世界シニア10ダンス選手権への派遣選考会は、2022年1月9日京都(伏見港公園体育館)で開催。

ユース/ジュニアの10ダンス派遣選考会は、2022年は開催せず、2023年の1月、2月に開催します。

2022年度世界シニアIIの派遣選考会は、2022年7月17日(日)ダンススポーツフェスティバルin東京(駒沢体育館)で開催。

世界シニアIIIの派遣選考会は、2022年8月28日(日)日本スポーツマスターズ2022岩手大会記念事業DS競技大会(花巻市総合体育館)で開催。

世界シニアIVの派遣選考会は、2022年9月25日(日)西部ブロック選手権 大阪(不死王閣)で開催。

3) 競技関連規程集について

本年は競技会主催者、競技役員用の競技関連規程全てを掲載した「2022年版JDSF競技関連規程集」を2年ぶりに発行致しました。チェアパーソン(競技長)はじめ競技会を運営される方はよくお読みになり、競技会開催時には是非お手元において、お役立て下さい。

これまで登録選手の皆様に配布されていた「選手用競技関連規程集」は2016年より廃止となりました。

2022年 競技関連規程集の主な改訂ポイントと解説

- (全体) 「登録年度と競技年度の設定が変更された」(JDSF競技規則、他関連規程)
 会員登録や選手登録等の登録年度は、4月1日～翌年3月31日。
 昇降級を含む競技年度は、1月1日～12月31日となり、関係箇所の調整をした。
- (全体) 「選手登録を含め、競技会のジェンダーフリーに対応した」(JDSF競技規則、他関連規程)
 今まで3級戦のみに認めてきた同性同士の出場を「公認級別競技」の全てに広げた。
 選手登録期間中の1年間は、男性役、女性役の選手登録の変更は出来ない。
 ジュニア、ジュブナイルの大会、WDSF等海外の大会は、それぞれの規程に従う。
- (P 2) 第5条、第7条：承認競技は、公認競技の各規程に準拠する。
- (P 3) 第14条：男性役、女性役選手登録者のどちらも、下位級競技区分には出場できない。
 ジェンダーフリーの適用により、どちらの登録者も下位級区分には出場不可となった。
 公益社団法人として、男女の性差や不平等性をなくし、LGBTQにも対応する内容とした。
- (P 3) 第16条：演奏時間・1ヒート10組以下で、アップ数が5組以下の場合は、60秒以上でも可とする。
 昨年の特例措置を、本年以降、通常の競技規定に運用できるようにした。
- (P 3) 17条：曖昧な表現の文章を、明確な文章に訂正した。
- (P 8) 40条：競技会の出場には、登録料の振込みが完了していることを明確にした。

- カップル登録の性別は問わない。性別変更の選手登録、年度途中は不可。登録更新時と新規のみ。
- (P11) 別表1-2 (シニア系競技)：シニア競技に出場する資格要件を文章として追加説明した。
- (P13) 競技規則 細則：無断欠場への対応を考慮し条文とした。欠場届けの様式はHPに掲載。
- (P13) 審判員判定の没収：主にリアルシステムによる審判員判定のトラブルに対応した。
- (P14) 競技会に関する内規：第3条の3、年度当初に開催の競技会予定表は先に本部に提出を。
 第4条の4：選手登録を失効した場合、3ヶ月以内(6月末迄)に、再発行手数料(2,000円)の振込みと、登録手続きを完了すれば選手登録資格を維持できる。
- (P15) 昇降級基準に関する内規：欠場と棄権の定義を明記し、支援システムと対応した。
- (P16) 競技会主催者へのガイドライン：競技区分減少で、ラウンド間の休憩時間を10分に変更した。
- (P22) ジュブナイル、ジュニア：フィガー、服装判定、服装区分等を判り易くまとめた。
- (P 63) 国際派遣選手選考規程：派遣選考競技会の実情に合わせて変更した。
- (P 69) 会費に関する規程：会計収支に関わる規程なので削除。HPを参照
- (P 69) シラバス作成基準：現状に合わせて一部変更した。
- その他、文言や数字等の加除訂正、配列の訂正、変更などをした。

2021年度全日本ダンススポーツランキング競技の順位結果

全日本ダンススポーツランキング

●スタンダード

1位	大西 大晶・大西 咲菜	富山県	6位	藤森 春樹・金山 咲月	東京都
1位	小嶋みなと・盛田めぐみ	神奈川県	6位	熊谷 光晃・粕尾明日香	東京都
3位	五月女光政・五月女叡佳	栃木県	8位	海老原竜太・須田 美咲	千葉県
4位	石垣 和宏・三喜穂菜美	千葉県	9位	飯沼 孟大・馬場えりな	神奈川県
4位	山田 恭平・秋山 彩織	東京都	9位	佐藤 祐馬・久保田理沙	東京都

●ラテン

1位	大西 大晶・大西 咲菜	富山県	6位	五月女光政・五月女叡佳	栃木県
2位	海老原拳人・タカギルナ	千葉県	6位	福馬 智生・泉名 咲璃	東京都
3位	押川 慧悟・和田 知世	神奈川県	8位	井上 裕太・藤原 咲那	宮崎県
4位	高橋 海・鈴木 柚葉	千葉県	8位	魚島 湊太・杉原 彩波	東京都
5位	藤井 創太・中村 安里	千葉県	8位	今西 竜矢・今西 心菜	東京都

ユースランキング

●スタンダード

1位	木下 将希・小西 乙愛	千葉県/ブルボンDST
2位	中村エドワード・中村エリカ	東京都
3位	ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実	神奈川県/ブルボンDST
4位	山本 壮真・三喜真梨菜	愛知県/ブルボンDST
5位	高階 凌・馬場梨紗子	北海道
6位	小嶋 獅桐・牧野 華礼	群馬県

●ラテン

1位	今西 竜矢・今西 心菜	東京都
2位	山本 壮真・三喜真梨菜	愛知県/ブルボンDST
3位	ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実	神奈川県/ブルボンDST
3位	高橋 海・鈴木 柚葉	千葉県
5位	小嶋 獅桐・牧野 華礼	群馬県
6位	高階 凌・馬場梨紗子	北海道

PD全日本ポイントランキング

●スタンダード

1位	久保田弓椰・徳野 夏海	TEAM YUMIYA 北海道
2位	山崎 圭太・石本美奈子	エムズダンスアカデミー
3位	秋谷 孝宏・田原 美穂	エムズダンスアカデミー
4位	高橋 一昌・高橋由紀子	幸手K&Yダンスクラブ
5位	壺内 康文・壺内 美和	スターロードダンスセンター
6位	グザー・アレクシー・太田 吏圭子	リズムメディア
7位	山本 武志・木嶋 友美	LIBERA DANCE
8位	見元 克至・北畑 香織	アサノダンススクール
9位	川田 悟・長島あすみ	KAWATA Dance Club
10位	前田 雅仁・宮崎 梢	まえたダンス倶楽部

●ラテン

1位	久保田弓椰・徳野 夏海	TEAM YUMIYA 北海道
2位	山本 武志・木嶋 友美	LIBERA DANCE
3位	西村 康宏・鳥尾 綾香	航空公園舞ダンススクール
4位	Kevin・河岡 宏美	T-Dance Production
5位	新屋 秀和・滝川 絵理	シンヤダンススタジオ
5位	高島 大知・田村奈緒子	TAICHI DANCE LUCE
7位	西 恭平・西川 真由	LIBERA DANCE
8位	高辻 博希・岡田 優美	タカツジ・ダンス・スタジオ
9位	兄後 幸大・兄後 智子	Any's Dancing Club
10位	上原 伸之・家入 由佳	Up Joy Dance Studio

ジュニアランキング

●スタンダード

1位	津田琥汰朗・津田マリア	大阪府
1位	ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実	神奈川県/ブルボンDST
3位	原口 侑弥・大西陽来里	富山県
4位	外村 温仁・石井アンジェリナ	神奈川県
5位	高階 凌・榮岩由莉那	北海道
6位	吉岡 栄太・打越 聖愛	千葉県

●ラテン

1位	ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実	神奈川県/ブルボンDST
2位	今西 竜矢・中井 結愛	東京都
3位	津田琥汰朗・津田マリア	大阪府
4位	原口 侑弥・大西陽来里	富山県
4位	高階 凌・榮岩由莉那	北海道
6位	岡内 唯一・岡内 暖羽	大阪府

・詳細は、JDSFホームページの競技会 スタンダード&ラテン ランキングをご参照ください。

第1回 高知県 ダンススポーツ競技会

2021年11月28日(日) / 高知県香南市野市総合体育館



佐々木大会会長(高知県ダンススポーツ連盟会長)の開会宣言

JDSFが進める全都道府県DS連盟の各スポーツ協会加盟促進も、いよいよ大詰めに近づきました。

11月28日(日)、記念すべき「第1回高知県ダンススポーツ競技会」が、香南市野市総合体育館において、ラテン・スタンダード共にA級からD級、シニアオープン戦に加え、地元ならではの「よさこい戦」C・R、「龍馬戦」W・Tには高知県からも沢山のエントリーがあり85組(延べ151組)が出場し、盛大に開催されました。

前日の会場設営には高知県連盟の役員と共に審判員も手強い、2時間程で立派な試合会場に仕上がりました。当日は風も無く太陽も出ていて温かい一日となり、暖房施設のない会場にあって、選手に大きな負担をかけずに進行できた事は嬉しい限りでした。コロナ対策も万全にしていた大会であり、競技中はマスクの着用義務はありませんでしたが、まだまだ着用して踊る選手も多く、司会者にも息苦しさが伝わってくるので、選手の顔色を見て深呼吸など何回も

取り入れながらの進行となりました。A級戦にはジュニアや学連からも参加があり、オナーダンスでは、会場は感動の大きなため息と笑顔、共に鳴り止まない拍手がいつまでも続いておりました。

約5時間の試合中トラブルもなく、選手の方々のご協力や高知県役員、各県連盟の役員の献身的な努力のおかげで、初めての試合で苦労も多かったにもかかわらず、結果的には大成功だったと思います。

大会会長を務める佐々木浩一高知県ダンススポーツ連盟会長も「本日は素晴らしい踊りを見せて頂きました。そして、本大会が大成功に終わったこと、本当に良かったと思います」と話されました。会場に来られた選手、役員、観客、全ての皆様に心からの感謝で締めくりたいと思います。ありがとうございました。

(京都府ダンススポーツ連盟/谷口小夜子(司会担当)記)



谷口主嘉・小夜子ご夫妻



B級戦スタンダード 表彰式



B級戦ラテン 表彰式



C級戦スタンダード 表彰式



C級戦ラテン 表彰式



D級戦スタンダード 表彰式



D級戦ラテン 表彰式

A級戦

ラテン・スタンダード共に優勝 大田歩生・松本京佳 組(北海道)



第1回高知県ダンススポーツ競技会を開催して下さった方々に感謝します。本当にありがとうございました。



皆様の応援のおかげで自分達の良い踊りを披露出来たので、とっても良かった！楽しかったです。



A級戦スタンダード 表彰式



〈スタンダードB級優勝〉
川東慎太郎・
榮岩茉莉那 組
(大阪大学)



A級戦ラテン 表彰式



〈スタンダードC級優勝〉
岡内唯一・
岡内暖羽 組
(大阪府)



よさこい戦チャチャ 表彰式



よさこい戦ルンバ 表彰式



龍馬戦ワルツ 表彰式



龍馬戦タンゴ 表彰式

2021ジュニアダンス フェスティバル in 静岡



開会式

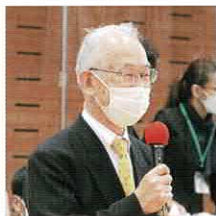
2021年10月31日(日) / 静岡市南部体育館

コロナ禍にあってデルタ株の猛威も加わり、8月28・29日神奈川県川崎市で開催予定の2021年オールジャパンジュニアカップは、実際に首都圏などの医療体制の限界ともいわれる状況になり、溝口稔ジュニア育成部長、小野智史実行委員長(神奈川県DS連盟会長)の苦渋の選択となり、2020年・2021年と連続の中止となりました。このような状況の中、10月にはコロナも減少傾向にあり、その対策も万全の体制で臨み、2017年から毎年恒例となった静岡県のダンススポーツ連盟とボールルームダンス連盟の共同開催による「2021ジュニアダンスフェスティバルin静岡」が開催されました。

金子和裕静岡県DS連盟会長(JDSF常務理事)は、「組織の枠を超え明日の日本を担うジュニア選手には大きく成長して欲しい。パリ五輪正式種目を決めたブレイキンに負けないように、10ダンスも頑張っていきたい」と挨拶。



金子和裕静岡県DS連盟会長(JDSF常務理事)



溝口稔ジュニア育成部長



静岡県BD連盟の坂本好彦(サカモトダンス学院)会長

静岡県BD連盟の坂本好彦(サカモトダンス学院)会長は「県内はもとより、県外の皆様にも多数ご参加頂きました。まだまだイベントの制約もありますが、参加選手の皆様には、観客の前で踊れる楽しさを、観客の皆様にはリアルタイムで観戦できる楽しさを、是非、味わっていただきたい」と挨拶。静岡県はもとより、北海道、東京都、神奈川県、山梨県、愛知県などからの参加もあり大会は大いに盛り上がりました。



- 優勝 山本壮真・三喜真梨菜組(ブルボンDST 愛知県)
- 第2位 高階凌・榮岩由莉那組(Team YUMIYA 北海道)
- 第3位 ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実組(ブルボンDST 神奈川県)
- 第4位 山下遥聖・山下実彩妃組(ユースアスリートクラブ 愛知県)
- 第5位 吉田周平・吉田有沙組(ユースアスリートクラブ 神奈川県)
- 第6位 外村温仁・石井アンジェリーナ組(横浜中央キッズクラブ 神奈川県)
- 第7位 小宮康平・渡辺華凜組(ジュニアアスリートクラブ 神奈川県)



優勝

山本壮真・三喜真梨菜組
(ブルボンDST 愛知県)



ユース スタンダード

第4位

山下遥聖・山下実彩妃組
(ユースアスリートクラブ 愛知県)

ユース ラテン



第4位

吉田周平・吉田有沙組
(ユースアスリートクラブ 神奈川県)

優勝

ユース競技
スタンダード&ラテン
優勝

山本壮真・三喜真梨菜組
(ブルボンDST 愛知県)

共に2005年生まれの16歳、高校生カップルです。
「優勝できて嬉しい。カップルを組んで8年。その時々課題に対して、クリアしていくことが楽しみです。次の三笠宮杯も頑張ります!」



- 優勝 山本壮真・三喜真梨菜組(ブルボンDST 愛知県)
- 第2位 ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実組(ブルボンDST 神奈川県)
- 第3位 高階凌・榮岩由莉那組(Team YUMIYA 北海道)
- 第4位 吉田周平・吉田有沙組(ユースアスリートクラブ 神奈川県)
- 第5位 外村温仁・石井アンジェリーナ組(横浜中央キッズクラブ 神奈川県)
- 第6位 小宮康平・渡辺華凜組(ジュニアアスリートクラブ 神奈川県)



三島市のグローリー
(指導者:本多由美子)による
フレンチカンカン

浜松市のDeジュニアルン
(指導者:本村幹夫)の
子どもダンスうらんど



団体演技発表



優勝

高階凌・榮岩由莉那 組
(TEAM YUMIYA北海道)



第2位

ホワイトン謙心・
ホワイトン夏奈実 組
(ブルボンDST 神奈川県)



第3位

外村温仁・
石井アンジェリーナ 組
(横浜中央キッズクラブ
神奈川県)

小宮康平・
渡辺華凜 組
(ジュニアアスリート
クラブ 神奈川県)



第4位

ジュニア スタンダード

ジュニア ラテン



優勝



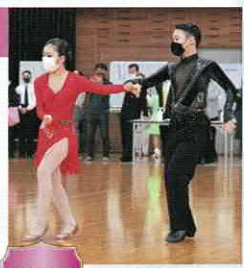
第2位

高階凌・榮岩由莉那 組(TEAM YUMIYA北海道)



第3位

外村温仁・石井アンジェリーナ 組
(横浜中央キッズクラブ 神奈川県)



第4位

小宮康平・
渡辺華凜 組
(ジュニアアスリート
クラブ 神奈川県)

ホワイトン謙心・
ホワイトン夏奈実 組
(ブルボンDST 神奈川県)

小学生5～6年



シャイプ優勝

野澤和心・鈴木一葉梨 組
(キラビーキッズ山梨)



ワルツ・
クイックステップ・
ヴェニーズワルツ
優勝

サンバ・チャチャ
優勝

渡邊桐茉・
高瀬遙組
(キラビーキッズ
山梨)



優勝



小澤莉緒・上野夏実 組
(キラビーキッズ山梨)

中学生 スタンダード



中学生 ラテン



優勝

安原ゆめる・矢川莉梨 組



小学生1～4年

メレンゲ

サルサ

キラ星み～つけた!

柳麻希子(ジュニアアスリートクラブ神奈川県)

小学生1～4年ワルツと小学生ソロ/サンバで優勝、小学生ソロ/チャチャ準優勝、小学生1～4年チャチャチャ3位、中学生ソロ/チャチャ3位など、鈴木璃音君、鈴木海璃君の兄弟とカップルと組んで、また、ソロでも多くの競技で大活躍です。

「6歳からダンスを始めて3年。ラテンの方が好きです。メダルは5個もらいました。全部で40曲近く踊ったと思いますが数え切れません。とにかく楽しかったし全く疲れていません。明日は運動会の関係で学校は休みで～す!」と、ハキハキと話してくれました。



第34回埼玉県県民総合スポーツ大会 ダンススポーツ競技開催!!

やさしさと思いやりで、ダンススポーツの輪を広げよう!!

2021年11月21日(日) / 上尾市民体育館

埼玉県は、各市町村やスポーツ・レクリエーション団体等が開催する各種大会のうち、特にスポーツ・レクリエーションの普及、競技力の向上に貢献する大会を『県民総合スポーツ大会』として位置づけています。埼玉県スポーツ推進計画が掲げる「スポーツがつくる活力ある埼玉」を推進する埼玉県スポーツ協会(旧県体協)と埼玉県ダンススポーツ連盟の共催で、2021年度のダンススポーツ競技はコロナ対策徹底の下に開催されました。

For the Children, For the Future !!

(男女、同性同士可)

第16回埼玉県ジュニアダンススポーツ大会

2008年、埼玉県DS連盟は子どもだけの大会を是非やって欲しいという会員の熱意と池田埼玉県DSC会長や県連役員との協力のもと、ジュニアの育成に力を注ぐため第1回ジュニア大会を開催。翌2009年は第4回オールジャパンジュニアカップ大会の併催として第2回大会を開催しました。以後、毎年継続され、2018年からは春と秋の2回開催とし、2019年の秋大会からは始めたばかりの子を対象にチャイルドミックスコンペを競技区分に加え、全員に賞状と金・銀・銅のお菓子の入ったメダルを用意したところ大変喜んでいただけました。

高橋久雄埼玉県DS連盟会長は、「2020年はコロナで開催できず今年も開催が心配されましたが、コロナ対策徹底の下に無事開催できた。競技システムのトラブルや保護者の方による衣装の一方的な抗議や、親が急に具合が悪くなり慌てて救急車を呼んだり、競技システムのトラブルで1時間以上も開始が遅れたり、色々なことがありましたが、あっという間の12年間でした。当時小学生だった子供も大学生や立派な社会人になっている姿を見ると感無量です」と話されました。



開会挨拶
高橋久雄埼玉県
DS連盟会長



マスクの着用等諸注意する
蒲生志津雄チェアパーソン
(JDSF競技部長)



大会の良き理解者のお母さまから寄贈いただいた賞品



チャイルドミックスの金・銀・銅メダル(丸い箱にお菓子がたっぷり、全員に配布されました)

スタンダード表彰式



優勝 小島獅桐・牧野果礼組
(ユースアスリートクラブ)



高校生の部



ラテン表彰式

優勝 小島獅桐・牧野果礼組 (ユースアスリートクラブ)



スタンダード表彰式



優勝 小澤莉緒・上野夏実組
(キラビーキッズ山梨)



中学生の部



ラテン表彰式

優勝 野澤和心・上野夏実組 (キラビーキッズ山梨)



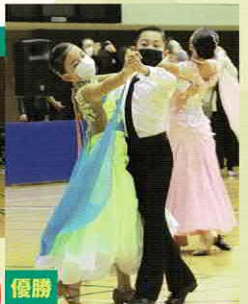
経験の少ない初心者の子供と、お相手は誰でも自由なカップルのコンペ(金メダル：ファイナル、銀メダル：セミファイナル、その他は全員銅メダルです)

チャイルド
ミックスコンペ
チャチャチャ

スタンダード表彰式



スタンダード表彰式



小学生の部 (5-6年生)

優勝
藤枝大河・斉月涵組
(ADSジュニア)

小学生の部 (3-4年生)

優勝
福原聖太・朴美静組
(ADSジュニア)

ラテン表彰式



優勝 野澤和心・上野綾花組 (キラビーキッズ山梨)

ラテン表彰式



優勝 児山遥都・佐藤緒心組 (木嶋クラブ)

ワルツ表彰式



優勝 鈴木海璃・戸上陽華組 (ジュニアアスリートクラブ)

小学生の部 (1-2年生)

チャチャチャ表彰式



優勝 鈴木海璃・戸上陽華組 (ジュニアアスリートクラブ)



第30回埼玉県ダンススポーツ競技大会 (JDSF公認競技戦)

ジュニアダンススポーツ大会の終了後は、埼玉県ダンススポーツ競技大会が開催されました。関東地方を中心に、長野県、宮城県、静岡県等からも選手が集まり、B級スタンダード94組、ラテン33組、C級スタンダード54組、ラテン31組、合計212組が出場、熱戦が繰り広げられました。



B級スタンダード表彰式

- 優勝 飯島 章裕・小林 未歩組 (東京都)
- 2位 須藤 真幸・目良 玲子組 (千葉県)
- 3位 森田 裕司・三浦 直子組 (埼玉県)
- 4位 小林 瑛司・三沢 幸子組 (栃木県)
- 5位 田中 嘉樹・古屋 香織組 (東京都)
- 6位 村山 光彦・村山 重子組 (宮城県)



B級ラテン 表彰式

- 優勝 岡嶋 勇樹・久利生莉里子組 (神奈川県)
- 2位 吉野新一郎・吉野久美子組 (埼玉県)
- 3位 千葉 文良・佐野八重子組 (茨城県)
- 4位 松島 潔・新坂 和子組 (埼玉県)
- 5位 新井 淑夫・玉川 洋子組 (埼玉県)
- 6位 猪瀬 聡志・宮本 雅美組 (茨城県)



C級戦 スタンダード表彰式

- 優勝 中嶋 克彦・嶋 順子組 (千葉県)
- 2位 三上 昇一・松村 幸子組 (埼玉県)
- 3位 嶋田以和貴・澤本 直美組 (東京都)
- 4位 大谷 淳樹・大谷 敏子組 (茨城県)
- 5位 小池 綱久・高井佳代子組 (山梨県)
- 6位 鈴木 利卓・安永 陽子組 (埼玉県)



C級戦 ラテン 表彰式

- 優勝 鈴木 利卓・安永 陽子組 (埼玉県)
- 2位 伊藤 夢・齋藤 直美組 (千葉県)
- 3位 平田 光明・海老原理恵組 (東京都)
- 4位 松本 章・尾形 亮子組 (埼玉県)
- 5位 原科 智太・原科 幸代組 (茨城県)
- 6位 作山 清・作山千枝子組 (茨城県)

WDSF世界ブレイキン選手権 2021レポート

JOCダンススポーツ・ブレイキンナショナルディレクター
(JDSF 業務執行理事)

渡邊 将広
(マーロック)



WDSF世界ブレイキン選手権2021にて 日本選手団が魅せた!! 女子選手2名がワンツーフィニッシュで 世界を圧倒!

JDSFブレイキン本部は、2021年12月4日(土)、パリ/フランスにて行なわれた世界ダンススポーツ連盟(以下WDSF)が主催する、世界ブレイキン選手権2021へ日本代表として4名の選手を派遣しました。本大会にて、世界の強豪選手を抑えAYUMI(福島あゆみ)選手が初の金メダル、AMI(湯浅亜実)選手が前回大会金メダルにつき、銀メダルを見事に獲得しました。男子選手2名は、トップ32のグループリーグへ進出したも、SHIGEKIX(半井重幸)選手10位、TOA(俣野斗亜)選手16位の結果に終わりました。

コロナウィルスの影響により2年ぶりの開催となったが、2020年12月のパリオリンピック追加種目正式決定後に開催されるはじめての世界選手権であり、かつ2024年パリオリンピック開催の地での開催ということもあり、世界50カ国以上から204名の選手がパリに集まりました。選手権の会場になったのは、セーヌ川右岸に1862年建造されたオペラヤバレエ、演劇やクラシックのコンサートが開催される歴史ある劇場のシャトレ座(Théâtre du Châtelet)でした。



(左からTOA / SHIGEKIX / AYUMI / AMI)

COVID-19の状況下で開催される世界選手権

参加する選手や全ての関係者は、前日にオフィシャルホテル内で行なわれるPCR検査を通過する必要がある、時には検査待ちの列ができることもありました。試合当日も出場選手の国内の感染状況に応じて、「レッドカントリー」と「グリーンカントリー」に分けられ、待機場所も隔離されるという今までに体験したことのない状況で選手権の運営がされていました。

いよいよプレセクションとグループリーグの開始

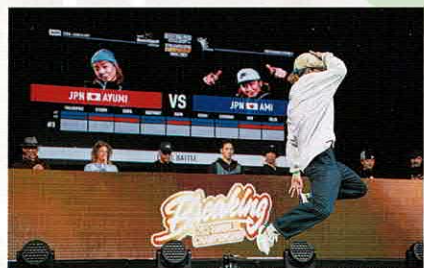
無事にPCR検査を通過し会場入りした日本選手団でしたが、まずは、全選手が1ラウンドを踊るプレセクションか



らスタートでした。危なげなく4名全員がプレセクションを通過し、グループトーナメントの開始です。グループトーナメントは、プレセクションで全出場選手から32名が選出され、その32名の選手を4名1グループに分けて総当たり戦をおこないます。グループからトップ8に進出するのは1名のみですので、グループ内で勝ち数もしくは得失点をトップで通過しなければなりません。女子選手2名は、グループ内の他国選手を寄せ付けない圧倒的な踊りで両選手がトップ通過し、トップ8の決勝トーナメントへ進出しました。男子半井選手は、本選手権で準優勝をしたカナダ人選手に得失点で3票及ばず敗退となりました。俣野選手もグループリーグで検討はしたものの、地元フランスの選手に勝ち数で及ばず男子両選手はトップ32のグループリーグで敗退となりました。

■体力と集中力で圧倒的な強さを見せた 決勝トーナメント

グループリーグを通過し決勝トーナメントへコマを進めた福島選手と湯浅選手は、いよいよシャトレ座のメインステージでトップ8の試合へ望むこととなりました。後半戦は有観客での実施であり、MC,DJ,オーディエンスも揃いブレイキンの大会が持つ本来の熱気が感じられる試合模様となりました。福島選手と湯浅選手は、トーナメント表では対局の山からスタートでしたので勝ち進むと決勝で両選手が当たる組み合わせで構成されていました。女子選手は決勝トーナメントともなると、体力と集中力の差が大きく見られました。この時点で21時であり、朝10時から会場入りしている選手達の顔には疲労の色が浮かび、さらにプレセクションから合わせると7ラウンドをこなしていました。決勝トーナメントからは、2ラウンド先取で勝ちとなる





石川勝之ブレイクダンス本部長（中央）

3ラウンド制のルールが採用されていたので、どのラウンドも引き続き気が抜けない試合運びとなりました。他国選手等がバックヤードで疲れを見せているところで、福島・湯浅の両選手はうまくリラックスと集中を切り替えることができました。さらに、日々のトレーニングの成果でもある体力は試合において圧倒的にパフォーマンスにおいても優位に立っていました。両選手とも順調にトーナメントをこなし、対局の山から勝ち上がったのは2名の日本人選手であり、決勝は初出場の福島選手と前回金メダルの湯浅選手で日本人対決となりました。1ラウンド目を先取したのは湯浅選手でしたが、両者一步もひかないギリギリの試合運びでしたが、特にミュージカリティとクリエイティビティにおいて優位を見せた福島選手が見事決勝を勝ち、世界チャンピオンの座を獲得しました。

■世界選手権を終えて、 JDSF BREAKINGが向かう先とは

今回の世界選手権では、トリビュームシステムという採点システムが採用されました。この採点方法は、BODY、MIND、SOULの3つの大項目の中に2つずつの審査項目が設定され、審査員それぞれがこれらの項目について採点を行

う方法です。2024年もこの採点システムが採用される見込みです。この審査方法は、全ての審査項目においてどちらが優勢かという相対評価が試合中に行なわれ、試合終了後にその得票が多い方が勝ちになるシステムです。今回参加した日本人選手等は全員が非常に質の高いパフォーマンスを披露していましたが、ダンスの構成においてトリビュームシステムで評価されるための「柱」を増やして行くことが、今後世界でもトップであり続けるためには必要であると感じました。

2つ目に、次世代選手の発掘・育成についてです。ブレیکنのオリンピック種目追加採用が発表されてから、各国の競技団体が動き始め次世代選手の育成に取り組み始めています。JDSFでも、ジュニアカテゴリーの立ち上げと運営を行ってきましたが、2022年度からは強化選手の採用と定期的な強化練習会の実施などで、次世代選手の育成に特に取り組んでいきます。

最後に、日本国内でのブレیکنの盛り上がりについてです。オリンピックでの種目採用後は、各所で大きな注目を浴びており、強化選手のメディアでの活躍やプロリーグでのブレیکنチームの活躍などがありますが、日本国内でブレیکنだけでなくストリートダンスシーンが継続的に発展し続けるためには、このムーブメントを一過性のものにせず、JDSF BREAKINGとしてはブレیکنをライフスタイルスポーツとして取り組むことができるプラットフォームとソフトの提供をし続けていかなければならないと強く感じました。普及・強化・マーケティングが三位一体となった活動でライフスタイルスポーツ化を目指していきます。これら、審査システムへの対応、次世代強化、国内の環境整備に取り組む、ブレیکنが益々発展していく環境作りに取り組んでいきます。



ルーブル美術館前にて



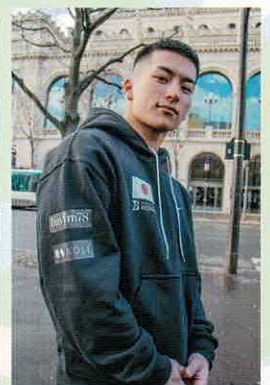
AMI選手




AYUMI選手



SHIGEKIX選手



TOA選手



つなげています スポーツへの想い

スポーツくじの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。

スポーツくじ  

ダンス・ダンス・ダンス
第102号 (Winter)

令和4年2月発行

- 発行人 / 山田 淳 (公益社団法人日本ダンススポーツ連盟専務理事)
- 編集人 / 神宮周二 (公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部相談役)
- 編集長 / 佐藤篤之 (公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部長)
- 企画 / 公益社団法人日本ダンススポーツ連盟広報部
- 発行所 / 公益社団法人日本ダンススポーツ連盟

〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町12-2 東屋ビル7階 TEL.03-6457-1850 FAX.03-6457-1857
http://www.jdsf.or.jp

©本誌の記事・写真の無断転載を禁じます。

www.toto-dream.com www.toto-growing.com ①9歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター